

# 平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立久米中学校

## 教育目標(めざす児童生徒像)

夢や希望を持ち、学び合い、未来に生きる力を育む生徒の育成

### めざす生徒像

- 将来への夢を持ち、実現させようと努力する生徒
- ルールの大切さを知り、実行できる生徒
- 人権を尊重し、共に支え合い、高め合う生徒
- 身だしなみを整え、あいさつやそうじができ、時間を守る生徒

## 今年度の指導の重点

- わかる授業、学び合う授業の創造と学力の充実
- キャリア教育・小中連携の充実
- 心が通う生徒指導の充実
- 人権教育の充実
- 健康・安全教育の充実
- 家庭・地域と連携した心を育てる教育の充実

## 調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

### 【学力状況調査の結果】

全国(中学校)

- 国語A・Bとも正解率は県平均と比べると高く、全国平均とほぼおなじである。
- 国語Aでは、資料を活用して答える問題や文の成分照応の問題は県平均と比べると低いが、漢字や語句の意味に関する問題は高い。
- 国語Bでは文を要約したり文章の展開に即して内容を理解したりする問題は県平均と比べると低いが、自分の考えを具体的に書く問題は高い。
- 数学A・Bとも正解率は県平均よりかなり高く、全国平均と比べても高い。
- 数学Aでは、自然数や商などの用語の理解は県平均と比べて低いが、図形や関数分野などの他の分野はかなり高い。
- 数学Bでは理由を説明する問題は県平均と比べて低いが、図形や資料活用能力は高い。

県(中学校)

- 国語は県平均を上回っており、数学、社会、理科は県平均とほぼ同じである。
- 国語はすべての問題の内容で県平均を上回っている。
- 社会は歴史分野で県平均と比べて低いが、地理分野は高い。
- 数学では小数や分数の計算や百分率、割合、比が県平均と比べて低いが、図形は高い。
- 理科では物理分野が県平均と比べて低いが、生物分野は高い。
- 国語は基礎・活用とも学力がついている。社会、数学、理科では基礎は学力がついているが、活用が課題である。

### 【学習状況調査の結果】

- 家庭での学習時間(1時間以上)の割合は県平均に比べてかなり高い。
- 家で、学校の宿題している生徒の割合は県平均に比べてかなり高い。
- 規範意識、自尊感情、難しいことへの挑戦、将来への目標、学校が楽しいは県平均と比べて高い。
- 国語への関心等、算数・数学への関心等は県平均と比べてかなり高い。
- 平日にゲームをする時間が1時間以内の生徒の割合は県平均と比べて高い。
- テレビ等の視聴時間が1時間以内の生徒の割合は県平均と比べてほぼ同じである。
- 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間以内生徒の割合は県平均と比べて低い。
- 2時間以上平日にゲームをする、2時間以上のテレビ等の視聴、2時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する割合は県平均より低い。
- 読書時間(30分以上)の割合や学校図書館や地域の図書館を週に1回以上利用する生徒の割合は県平均とほぼ同じであり、昨年度と比較すると低下している。
- 400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと感じていない生徒の割合は県平均と比べてかなり高い。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意な生徒の割合は県平均と比べてかなり高い。

## 成果と課題

### 【成果】

- 協同学習の定着により、徐々にではあるが教室に「学び」が増えてきている。また、授業での「わかる」喜びが、学習意欲につながっていると思われる。
- 授業に集中して取り組み、自主学習の取り組みの定着などにより、基礎基本が定着できている。
- 問題データベースをほとんどの教科で活用しており、計算力・漢字などの基礎基本が身につけている。
- 朝読書の取り組みの定着により、深く読み取る力が身につけている。

### 【課題】

- 語彙が不足しており、問題の意味を理解できない点がある。
- 資料を読み取る力や理由を説明する力が不足している。
- 平日にゲームをする時間、テレビ等の視聴時間、携帯電話やスマートフォン使用する時間がそれぞれ2時間以上の生徒が県平均より少ないが多数いる。

## 課題に対応した改善方法

- 毎日の授業の中でどの教科でも協同学習による「学び合い」の時間を設ける。
- 文章を読み取る力をつけるため、滴一滴の書き写しと要約を続ける。
- どの教科でも資料を活用しながら自分の考えを筋道を立てて書いたり表現したりする活動を多く取り入れる。
- どの教科でも授業の終わりに学習のまとめとして授業内容を自分の言葉でまとめる振り返りを行う。
- どの教科でも問題データベースをさらに活用して、ドリル的学習を取り入れ基本事項の徹底を行う。
- 基礎・基本の定着のための補充的学習を問題データベースを利用して、放課後、長期休業中、定期テスト前に行う。
- 中学校区の各小学校と連携してノーメディアに取組む。
- 生徒会が取り組んでいる「久米中スマホ宣言」を継続し、保護者にスマホ使用についてのルールづくりを啓蒙する。
- 家庭学習時間確保のため学級委員会の活動を活性化し、自主学習ノートの提出率を向上させる。
- 図書委員会を中心に本の紹介等を行い、読書に興味を持つ生徒を増やす。
- 学力・学習状況調査、学力到達度確認テスト、たしかめテストの問題を授業、放課後学習、家庭学習で活用する。

## 取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 協同学習を推進するために授業研究中心の校内研修を行い、全員が授業公開をする。(2月末までに)
- 学級委員会の活動として自主学習ノート提出強化期間を設ける。(定期テストごと)
- 中学校区の小学校と連携してノーメディアの取組を行う。(定期テストごと)
- 生徒への学習時間のアンケートの実施(定期テストごと)
- 生活委員会の活動としてメディア使用のアンケートの実施(定期テストごと)
- 上記の結果を受けて改善方法の見直しを図る。

## 各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全教科の平均正答率が全国平均を上回る。
- 家庭学習時間確保のため自主学習ノートの提出率を全クラス80%以上にする。
- 定期テスト前の家庭学習時間100分以上の生徒を90%以上にする。
- 夜9時以降のメディア使用を50%減らす。